

第3学年4組 道徳科学習指導案

日 時 平成31年2月4日(月) 3校時
 児 童 3年4組 30名
 指導者 奥州市立前沢小学校 伊藤 郁子

1 主 題 よく考えて行動するために

2 教材名 「それは、だれの作ひん」 (出典『新しいどうとく3年』)

補助教材 「コンピュータやけい帯電話などをどのように使えばよいのでしょうか」

(出典『わたしたちの道徳 小学校3, 4年』)

3 ねらい

(1) 本時のねらい A 節度, 節制

「よく考えずに行動する」ことのこわさについて、情報機器の活用やその他の生活場面で考えることを通して、危ないことや困ったことにならないようにするためにはどのようにすればよいのかを考え、約束やきまりを守りながら、慎重に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 消費者教育の視点

育むべき力：学校教育における消費者教育の体系図より (消費者庁)

- ◎ 【商品等の安全】商品安全の理解と危険を回避する能力
危険を回避し、ものを安全に使う手がかりを知ろう
- 【生活の管理と契約】選択し、契約することへの理解と考える態度
約束や決まりの大切さを知り、考えよう
- 【情報とメディア】情報社会のルールや情報モラルを理解
自分や知人の個人情報を守るなど、情報モラルを知ろう

情報機器の活用には、著作権に関する情報モラルを守ることが大切であることに気付くとともに、「よく考えて行動する」とは具体的にどのようなことなのかについて、実際に起こり得る様々な問題場面を考えることを通して、危ないことや困ったことを回避するための方法について理解を深める。

4 展 開

	学習活動	主な発問(○)と予想される児童の反応(・)	指導上の留意点(*評価)
つかむ (5分)	1 アンケートの結果から、「よく考えて行動しなかった」経験について考える。	○これまでに、「もっと考えて行動すればよかった」と思ったことがありますか。 ・ゲーム ・けが ・授業中の態度 など 「よく考えて行動する」とは、どういうことなのだろう。	・アンケート調査の結果を紹介し、よく考えずに行動した結果、危ないことや困ったことになっていることに気付かせ、問題意識を焦点化させる。 ・困ることや危険なことにあわないためには、どんなことが大切なのか、と問うことで、問題意識を高め解決していこうという意欲につなげる。
	2 教材を読み、話し合う。 ・まさとの思いや行動について考える。	○お母さんに誉められて、ますますやる気が出てきたまさとは、どのような気持ちだったでしょう。 ・この調子だ。完成までがんばろう。 ・お母さんにほめられるようにがんばろう。 ・みんなが驚くような研究に仕上げるぞ。	・まさとの自由研究への積極的な姿勢や、母の作品への期待を感じているまさとの心情を理解させることで、まさとの作品完成への強い思いに気付かせる。

ふかめる

・2場面についてグループや全体で話し合わせる。

ポイント!

- 「これを貼ればいいよ。」と言われた時、まさとはどんな気持ちになったでしょう。
 - ・学校では、やってはいけないと教えられたなあ。
 - ・分かりやすいグラフだから、使いたいなあ。
 - ・友だちがやってみたらって言うから使おう。
 - ・全部使うわけではないから大丈夫だろう。
- お母さんの言葉を聞いて、まさとはどんなことを考えたでしょう。
 - ・やっぱりきまりを守ればよかった。
 - ・少しだけならいいか、と考えなければよかった。
 - ・お母さんに教えてもらってよかった。
- まさとは、どう考えてどのように行動すればよかったのでしょうか。
 - ・きまりを守るべきだった。
 - ・「少しだけなら大丈夫」と思わない。

次の場面のとき、どのようにアドバイスをしますか。理由を付けて伝えましょう。

	場面	その後どうなるか	アドバイス
①	ゲームを夜遅くまでしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻してしまう。 ・勉強が分からなくなる ・忘れ物が多くなったり、授業で注意されたりすることが多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人との約束を守る ・宿題が終わったらゲームをする。
②	「友だちの名前を教えて」と電話がきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・教えたら、友だちに迷惑がかかる。 ・自分も悪く言われてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教えない。 ・家の人に話す。 ・「分かりません」と言う。

- ・使ってはいけないと分かっているでも、自分の作品を良くしたいというまさとの心の二面性に共感させる。
- ・情報の発信や情報のやり取りする場合のきまりやルールについて守る大切さに気付かせる。
- ・インターネット上のルールを守らないと困ることになる可能性もあることに触れる。
- ・まさとは「よく考えて行動したのか」と問い、まさとの心の弱さを感じ取らせる。

- ・実際に起こり得る場면을提示し、アドバイスを考えることで、どのような判断でどのような言動を選択すべきなのかについて、自分事として考えられるようにする。
- ・ワークシートには、それぞれの場面に対して2つのことを考えさせる。1点目は「その後どうなるか」については、行動のその後のことを考えさせることで物事の想像力を、2点目「アドバイスを考える」では、適切な行動を選択する力を経験させたい。
- ・グループで話し合わせ、友だちと意見を交流することで、多様な考え方に触れさせる。

(33分)

つなげる (7分)

3 本時の学習を振り返る。

- 「よく考えて行動する」ためには、どんなことが大切だと考えますか。
 - ・これくらいなら大丈夫と簡単に思わない。
 - ・考えないで行動した後のことも考える。
 - ・約束やきまりを守ろうという気持ちをもつ。

- ・教材から学んだことや自分自身の経験から振り返らせ、危ないことや困ったことにならないために、慎重に行動しようという意欲につなげることで道徳的価値を深められるようにしたい。
- *「よく考えて行動する」ために、どのようなことを考えればよいかについて考えを発表したり書いたりしているか。

研究のまとめ

1 実践の概要

(1) 導入(つかむ)

授業の実際	分析と考察
<p>1 アンケートの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もっとよく考えて行動すればよかったと思ったこと」についての児童のアンケートを順次提示し、問題意識を焦点化し課題を設定した。例示した内容は、「物の破損」「生活の決まり(帰宅時間, ゲームの時間)」「無駄遣い」の4つを提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 例示した4名のアンケートは、道徳的価値の中の「節度・節制」の内容である。児童にとって身近な問題を取り上げることで、問題意識を焦点化することができた。また児童にとって経験のある内容を取り上げることで、課題解決への意欲付けにもつながった。

(2) 展開(ふかめる) 前段

授業の実際	分析と考察
<p>2 道徳的価値の類型化と登場人物への共感</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公がスーパーのホームページに掲載されている売り上げの立体的グラフを使用する場面での心の葛藤を理解させ、使用してしまった行為に共感させた。 「著作権」について簡単に説明を加え、インターネット上のルールを教えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書を構造化することで、使ってはいけないと分かっているながら、作品を良くしたいという主人公の心の揺れや二面性を捉えさせることができた。 情報モラルの観点から、「決まりを守らないとどうなるか」を教え、決まりを守ることが、慎重に行動するために必要だということを理解させることができたと考える。

(3) 展開(ふかめる) 後段

授業の実際	分析と考察
<p>3 道徳的価値の一般化</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の事象の中から、二つの場面(夜遅くまでゲームをすること, 他人の情報を無断で流出させること)を取り上げ、登場人物にアドバイスをするという設定で、どのように考えて行動すればよいのか考えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よく考えて行動する」ために大切にしたい気持ちや考えを押さえた後に、二つの場面ではどのように考え行動すればよいのかを、ペアや全体で考えさせた。行動を続けていたら、もし教えてしまったらという観点で考えることで、「よく考えて行動する」ことの大切さに気付くことができたと考える。

(4) 終末(つなげる)

授業の実際	分析と考察
<p>4 教材から学んだことと、自分の経験の2つから振り返った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「決まりを守ることが大切だ」ということや、「行動の後のことを考えていきたい」という内容を書く児童が多く、様々な角度から「よく考えて行動する」という態度について考えることができた。

(5) 児童のプリントから

ゆみさんの家に電話がかかってきました。
「よい参考書があるのよ。たくさんの人にしようか。いいことになるといいよ。」
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。

ゆみさんの家に電話がかかってきました。
「よい参考書があるのよ。たくさんの人にしようか。いいことになるといいよ。」
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。

ゆみさんにアドバイスをしてあげてほしい。あなたならどうアドバイスをするか、理由を口頭で話してください。

きょうのことわった方が友だちも自分も助かるよ。
だ、でももしそこで、友だちの名前や電話番号を教えていたら、友だちがかかっちゃうよ。

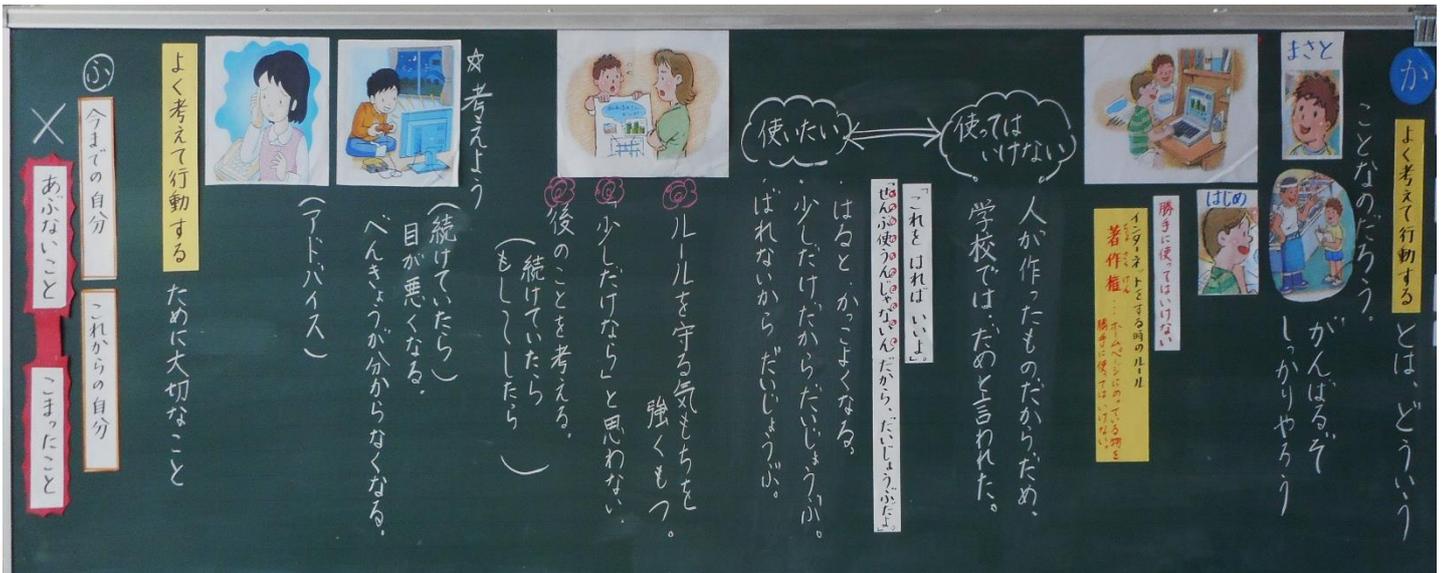
ゆみさんの家に電話がかかってきました。
「よい参考書があるのよ。たくさんの人にしようか。いいことになるといいよ。」
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。

ゆみさんの家に電話がかかってきました。
「よい参考書があるのよ。たくさんの人にしようか。いいことになるといいよ。」
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。

ゆみさんにアドバイスをしてあげてほしい。あなたならどうアドバイスをするか、理由を口頭で話してください。

あ、このことを考えてみる。さぎやじけんがさきたりとりかえしのつかないことになるからやめたほうがいいよ!

(6) 板書



(7) 児童の振り返りの様子

- ・今まではあまり後のことを考えなかったけれど、この道徳で後のことを考えて行動するということが分かったのでこれからは気を付けたいです。
- ・やっぱり、ルールを守る気持ちを強くもったほうがいいと分かりました。
- ・今までの自分はそれほど後のことを気にしないでいっぱい何かをしていたけれど、この道徳をして今度からは後のことを考えようと思いました。
- ・今までの自分は「少しだけなら大丈夫」と思っていたけれど、少しでもだめだと初めて知りました。
- ・今までの自分はルールを守る気持ちを少ししかもっていなかったもので、これからはルールをしっかりとする気持ちを増やしたいです。

2 考察

- ・児童の実態や教材分析から、3年生段階で「よく考えて行動する」ために大切なこととして、①「少しだけなら大丈夫」と思わない ②約束やきまりを守ろうとする強い気持ちをもつ ③行動の後のことも考える、の3点に気付かせたいと考え授業を構想した。授業前半では、「よく考えて行動するとはどういうことか」と課題を焦点化し、児童のアンケートや教材で自分との関わりで考えを深めさせた。授業後半では身近な生活場面で考えることを通して、「よく考えて行動する」ために大切な考えや気持ちについて理解を深めることができた。今後の自分たちの生活に生かそうという振り返りにつなげることができたのは良かった。
- ・消費者庁から出ている「学校教育における消費者教育の体系図」の中の、「危険を回避する能力」について道徳の授業の中で取り入れたいと考え授業を構想した。特に児童の実態において、危険を回避するためには3年生の段階で「よく考えて行動する」ことを大切にしたいと考えた。一方教材では、情報モラルの観点で「著作権」に関する内容が入っており、「決まりを守る」ことの大切さを扱っていた。そのため、複数の内容項目を関連付けて扱うことの難しさを感じた。消費者教育の観点からの授業づくりは、教科・領域等の学習内容を鑑み、扱うことが適切である単元や教材を見極めて実践していくことが大切であると改めて考えることができた。